

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500188
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会
事業所名	グループホーム シルバーケア豊寿園
所在地 (電話番号)	津市高茶屋小森町字瓦ヶ野4159番地 (電話) 059-235-2100
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 25 日(木)

【情報提供票より】 (H20年8月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 650 円
	夕食	750 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,850円		

(4)利用者の概要(8 月 26 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高茶屋クリニック 三井整形外科 紀平歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県下で社会福祉事業を広範囲に展開されている社会福祉法人の本部「地域総合ケアセンター」にあるグループホームである。敷地内には保育園、介護老人福祉施設及び介護老人保健施設と付帯する居宅系介護事業所、診療所等があり恵まれた環境である。特に介護老人福祉施設及び診療所とは密に連携しており、機能訓練士の訪問、定期健診の受診、重度化した場合の対応等健康面や医療面で安心感のある事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価結果は検討され事業所理念や運営推進会議メンバー構成等見直しされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者及び計画作成担当者が主導してまとめられているが、事業所の提供するサービスの質向上についてお互いの意見、考えを話し合う年一回の機会として捉えて、全職員が参画されることを期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>原則隔月に開催されており、直近では7月に催されている。会議は民生委員、自治会代表、老人会代表、市職員、家族代表を外部メンバーとして、現況報告、特定課題並びに運営上の意見交換等行なわれている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>相談・苦情窓口を玄関にも明示し、苦情は法人本部と管理者が受け止めることにしている。また、職員は普段の面会時や電話で日々の相談事等を受けとめ、職員会議の場で話し合われている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は法人が運営する広大な地域総合ケアセンター敷地内に設けられており、普段からセンター内各施設の方々や隣接する保育園の園児とのやり取りがある。また、小学校の運動会や買物に出向いたり、法人の催す夏祭り等諸行事に参加して地域の方々と交流している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体となる法人の理念「①・・・地域社会に貢献する、②・・・夢と希望を創造する、③・・・人々の生活と社会に前向きに取り組む」の下、事業所は「津に根付いて、明るく、楽しく、仲良く」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関及び食堂に掲示し、また、職員会議等機会あるごとに話し合っ、家族が集うホームパーティーや日々の支援を通じて実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は法人が運営する広大な地域総合ケアセンター敷地内に設けられており、普段からセンター内各施設の方々や隣接する保育園の園児との交わりがある。また、小学校の運動会や買物に出向いたり、法人の催す夏祭り等諸行事に参加して地域の方々と交流している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者及び計画作成担当者が主導してまとめられている。また、昨年の外部評価の結果は検討され事業所理念や運営推進会議メンバー構成等見直しされている。	○	自己評価は、事業所の提供するサービスの質向上について、お互いの意見、考えを話し合う年一回の機会として捉えて、全職員が参画されることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則隔月に開催されており、直近では7月に催されている。会議は民生委員、自治会代表、老人会代表、市職員、家族代表を外部メンバーとして、現況報告、特定課題並びに運営上の意見交換等行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人本部で密に連携している。また、法人四季報配布を通じ事業所の状況報告等している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎のケアプラン見直しの提示面談時に、暮らしぶりや健康状態等定期的に報告している。また、普段の面会時や電話で近況報告や相談をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を玄関にも明示し、苦情は法人本部と管理者が受け止めることにしている。また、日々の相談事等職員が受けとめ、職員会議の場で話し合われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は面接等を通して働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員の定着を図っている。また、全職員が利用者全員と馴染みの関係を保つよう努めると共に、移動に際しては認知症ケアの経験豊富な職員を配置するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各種研修や月例勉強会及び県グループホーム連絡協議会や県社協主催の研修会に全職員を適宜派遣している。それらの研修内容は毎月の職員会議で周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の勉強会や見学会ならびに法人内入所系リーダー会議等に参加し、同業者との交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の事業所見学を通して安心感を持って利用できる雰囲気理解してもらい、その後、生活状況の聞き取りや、家族等との面談を経て(更には、体験入所を経て)利用開始に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯物干しやたたむこと、調理、園芸等で本人のできる能力をみだし、話し相手になり和気あいあいと接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメント記録や家族からの情報をもとに生活歴や経験を知るように努め、更に日々の些細な表現や態度に気をくばっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時やケアプラン説明時に家族から出された意向や、担当職員との意見交換をもとに日々の課題を探り出し、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行なっている。利用者の状態に応じては本人、家族及び職員等の意見をもとに随時更新している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が運営する地域総合ケアセンター内各施設と連携しており、隣接する特養の特殊浴槽の利用や機能訓練士のマッサージを受けたり、診療所の定期健診を受けたりしている。また、本人、家族の状況に応じて、かかりつけ医への通院や買物等への送迎を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医での受診を継続すると共に、隣接する診療所等の協力医療機関とも連携した対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に「重度化に係る指針」を元に本人、家族と終末期や重度化した場合、事業所でできることできないこと等の対応を説明し同意を得ている。また、重度化した場合はケアは隣接の特養で行なう方針であり、転居の時期等主治医や家族に相談しながらできる限り本人と家族の意向に副えるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所は法人の「接遇プロジェクト」に参画し、職員は態度、言葉かけ、外来者への対応等について日々話し合っている。また、個人記録等書類は保管場所を定めて取扱いには気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間帯等の基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの体調、精神面を把握し、その時々々の本人の意思を尊重し、職員協調のもと対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は法人の厨房からの配食であるが、毎週金曜日(夕食)と隔週木曜日(昼食)は利用者の希望メニューを取り入れ、共に調理している。食事の準備や後片付けは利用者も共に行なっている。食事中は職員と利用者の会話、声かけの絶えない和やかな雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日午後入浴をベースにしているが、汗を掻いたり汚れた場合はその都度入浴支援している。また、今のところ希望はないが、要望があれば毎日の入浴等個々に対応可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、調理、食器片付け等職員と共に行なったり、菜園いじり、書き物、折り紙細工、カラオケ等楽しみ事で経験や知恵を発揮してもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	菜園に出たり、広い敷地内を散歩したり、隣接施設の知人を訪ねたり、時には買物に出掛けたり、個々の希望に添った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はもとより、日中は玄関や庭への出入り口すべて無施錠である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いの下、行なわれる地域総合ケアセンター全体での防災訓練に参加するほか、事業所独自に火災と地震を想定した防災訓練を毎月交互に行なっている。	○	防災マニュアル、緊急連絡網等法人組織との連携や協力体制を再確認され、職員の少ない夜間での災害を想定した通報連絡、避難誘導等訓練を実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養管理士の点検の下に献立、配食されるが、事業所では個々の咀嚼の状態に合わせて粥食や盛り合わせに配慮したり、好みに応じた調味料を用いて、バランスの取れた食事を支援している。また、水分摂取には毎食後にお茶の時間を設けたり、夜は居室にお茶を用意して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い窓のある居間、天窗のある廊下にはソファーやベンチがおかれ全体に明るく、温かみを感じられる。また、玄関、廊下、居間の壁は利用者の習字、折り紙細工の作品や行事写真等で飾られ、また、食卓には庭から採った花が置かれ、居心地よく工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた筆筒、日用品、置き物、家族の写真等持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		